

福 井 県 医 師 会

だより

第669号 平成29年(2017)3月



朝靄 福井市 竹越 忠美

表紙写真説明：朝靄

福井市 竹越 忠美

山々には靄や霞が漂い、四季折々に樹木はその様相を変える。またいたるところに溪谷があり、山岳に独特の表情をつけている。古来、峻巖な山に自然の象徴として神の力を感じ、山水画の創作において永遠のテーマである。

## 醫 縫 録

# 福井県医師会理事への就任挨拶

福井県医師会がん・脳卒中登録担当理事

福井大学腎臓病態内科学教授 岩野正之



平成28年7月に福井県医師会理事に就任致しました。県医師会と福井大学医師会を有機的に繋げる重要な役割を担っていると自認しております。理事会や中部医師会連合勤務医特別委員会に参加させて頂くことで、我が人生で初めて医師会活動を内側から体験することができました。理事会では、膨大な協議事項と報告事項を真剣に討論される先生方のご様子を拝見し、福井県の医療は医師会員の皆様のボランティア精神に満ちた献身的活動によって支えられていることを改めて実感することができました。また、先日参加させて頂いた中部医師会連合勤務医特別委員会では、医療事故調査制度や新専門医制度に対する医師会の対応について、出席者全員で白熱した協議が行われていました。私は医療安全担当の副病院長でもあります。昨今続発する医療事故のため、特定機能病院に対する社会の視線は厳しくなっておりますが、この貴重な経験を安全で信頼に足る病院の基盤構築に活かしたいと思っております。

さて、私は腎臓内科医ですので、私に与えられた使命は福井県の腎疾患診療レベルの向上にあります。すなわち、すべての腎臓病患者さんと透析患者さんが幸せな生活を送ることができるよう全力を尽くすことにあります。この紙面をお借りして、福井県慢性腎臓病（CKD）対策協議会委員としての私の活動内容を紹介したいと思います。先ず、世界腎臓デー（3月第2木曜日）に合わせて、毎年3月第1日曜日に福井市大和田のエルパで腎臓病啓発イベントを開催しています。福井大学病院の医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学士、福井県職員や福井県腎友会の皆様など、総勢30名程でイベントを盛り上げています。イベントでは検尿コーナーを設けているのですが、参加していただける市民が毎年30名前後と少ないことを残念に思っておりました。そこで本年は、全国に先駆けて福井式検尿キャンペーン事業を開始することにしました。福井県薬剤師会の協力を得て、本年2月中旬頃から福井県内約50か所の門前薬局で検

尿テープ7500枚を無料で配布します。このテープを自宅に持ち帰って尿検査を行い、蛋白尿陽性ならば、ホームドクターに相談するか啓発イベントに参加して腎臓内科医に相談してもらうという内容です。腎臓病の早期発見に繋がることを期待しています。次に、福井県健康増進課や各市町からの要請を受け、福井県内で出前腎臓病啓発講演会を行っています。すでに、福井市、越前市、坂井市、勝山市、敦賀市、などで実施しました。他の地域でも、出前のご希望がありましたらご連絡ください。

すでに御存じの先生も多いかと思いますが、福井県には透析専門医が極端に少なく、三国周辺、奥越、嶺南などの地域では、透析難民になる患者さんが少なくありません。腎代替療法には腹膜透析と腎移植もあるのですが、福井県ではどちらの療法も少数しか行われていませんでした。私は福井大学に就任以来、腹膜透析を広げる活動を行ってきましたが、ついに昨年、福井県の透析導入患者で腹膜透析の占める割合が20%を超え、全国1位になりました。私は公益財団法人福井県臓器移植推進財団理事長として腎移植の普及活動にも取り組んでいます。日本では献腎移植数が増加しないことが移植推進の大きな障壁であり、その要因の一つは意思表示率の低さにあります。運転免許証や健康保険証の裏にチェックするだけで良いはずですが、医療関係者や医学生でも意思表示率が低いのは問題です。医療関係者でも「移植を希望しない」という選択はあっても良いと思うのですが、理由もないのに意思表示をしないというのは如何なものでしょうか。

最後になりますが、今後も上記の社会活動にも力を入れ、福井県の医療に貢献したいと考えております。医師会の皆様にはご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。